



東京宝島
TOKYO
TREASURE ISLANDS



瀬戸内海の島仲間、豊島とオンラインで交流！

母島では、母島の今と未来を考え、これからも母島らしく人々が生活するための取組を進めています。その柱となっているのが、島の語り合いの場である「母島部活堂」です。



母島部活堂は島内で、対面による実施を基本としていますが、2021年度の前半は緊急事態宣言が続いたため実際に集まることが困難でした。しかし、6月、7月には島内の団体「ふるさと検討会」との座談会が実現し、改めて母島の高齢者福祉や住宅についてなど母島の課題を再認識することとなりました。そんな経緯から、他の地域・離島ではこういった生活の課題にどう向かい合っているのか疑問に思い、直接話を聞いてみたいと考えたのです。

そんな中、縁あって8月には香川県の豊島に住む森島丈洋さんとともに、それぞれの島の生活とこれからについて話す交流会をオンラインで開催することができました。



豊島は直島と小豆島の間に位置しており、人口約900名の島です。かつては産業廃棄物の不法投棄などの社会課題もありましたが、近年では瀬戸内国際芸術祭の会場のひとつともなっており、「アート」の島」「食や自然が豊かな島」というイメージも定着しています。世界からの観光客も多く、移住者も増えているそうです。

瀬戸内海にあり本土にも近いということで母島とは環境的な違いはありますが、「島での暮らし」ならではの困りごとや医療・福祉などの課題は共通点があり、島での課題を柔軟に解決しながらともに未来に向かおう、という前向きな意見交換となりました。

母島部活堂プレゼンツ 島と島で語るシリーズ
「福祉の島」 豊島 「東京最南端の情島」 母島
第2回 島移住の魅力! 豊島 to 母島
香川県土庄町豊島人口79人 東京都小笠原村母島人口457人
9月21日(火) 19:00~20:30
YouTube Live <https://youtu.be/1F1djqXVSLg>
※オンライン配信 母島部活堂 検索Q

前回(8/17)の対談で各島の課題や現状について語り合ってきました。地域活動の人手や老人ホーム、時代に合わせてソフトしてきた等…今回は豊島と母島の「移住者が絶えない」という共通項に着目し、お互いの島の魅力について勝手に語り合いますよ。色んないいヒントが隠れているかも知れませんよ〜!? お気軽に覗きにきてくださいな

●今回のプレゼンテーマ
【豊島移住の魅力】 時代に合わせて柔軟にソフトしてきた豊島の魅力
【文化の客体化】 文化は遠送されるものではなく、客体化する事で時代に合わせて変化するもの。
【母島移住の魅力】 コンビニも映画館もない絶海の孤島の便利な暮らし

森島 丈洋/豊島
岐阜県出身。2000年8月に豊島に初来島。2006年2月より豊島で生活を始める。その後約10年間職業に携わり、2016年からはガイド業を中心に活動し、2017年株式会社デジマサイトを設立。(旅行業)

後藤直哉/内地
株式会社makes代表取締役 / 法政大学地域創造システム研究所主任研究員
地域活性化に関する業務に従事し、東京宝島事業では母島を担当。法政大学では、地域活性化における組織の在り方に関する研究を行っている。

宮城 ジャイアン/母島
便利屋/宅急便・郵便配達 / コミ回収/介護/農
稲島出身。2002年に父島に移住。2009年より母島へ。2019年から東京宝島事業の母島地域コーディネーターとして活動。母島の島民による主体的な地域作りに関心がある。

+ 第2回は島民ゲストも一緒に各島の魅力について語っていきます!
母島部活堂 <https://hahajimbukatsudo.jimdofree.com/>

好評につき、9月に実施された第2回では、「島移住のススメ」と題して、島に移住して生活することについて、ざっくばらんにトークが繰り広げられました。母島の宮城さんも、豊島の森島さんも移住者として島にやってきて、島の豊かさに触れて生活しています。二人が生き生きと話す姿に、イベント参加者からも多くの感想が寄せられました。環境は違えど、「若者たちのためにも住まいと仕事の安定を強化することが重要」といった課題認識も共有できました。

豊島とのオンラインイベントは一旦終了となりますが、他の地域での暮らしを知ることは刺激にもなり、新しいチャレンジをしよう!という気持ちにもつながります。

他地域との交流はこれからも継続していく予定です。自発的に新しい世代の人たちが頑張っている地域の事例を見聞きし、課題を共有することで、母島の人々が豊かに暮らし続けるためのヒントを得ていきます。

また、今後は、母島の地域力向上を目指し、母島島内の「母島部活堂」を積極的に展開していく予定です。